

第2回 高1英語

総評

今回の試験では、総合的な英語力を測るため、リスニング、文法・語法、英作文、長文読解など多様な形式で出題している。基本的な文法・語法の正確な知識だけでなく、それらをもとに、伝えたいことを英語で表現する力や、英文を理解し、読み取った内容を的確にまとめる力を求めている。高2に向けて、これからは、英文1文ごとの理解だけでなく、パラグラフや英文全体の文脈を意識した読解練習をしてほしい。今回の結果は、総得点だけでなく大問ごとの出来や誤答の内容もきちんと確認しておこう。

問題別講評・採点基準

1 リスニング

ナチュラルな読み上げスピードによる放送であった。放送前に設問に目を通し、注意して聞くべきポイントをあらかじめ予測しておくことと取り組みやすかっただろう。また、特に計算が必要な設問は適宜メモを取りながら聞くこと。聞き取りにくかった箇所については、解答解説の放送内容を音読して復習しておこう。

A

英問英答形式の設問で、選択肢の英文がやや長いものもあり、英文を聞きながらの素早い判断が求められる。放送された英文自体は難解なものではないが、フィルの日々のスケジュールや、ハンナからのアドバイスなどについて正確に把握する必要があった。

B

Part 1

(2) 何と何の difference を問われているのかに注意。

(4) 設問指示 not を見落とさないこと。

Part 2

スペルミスの減点は各-1点であるが、単語の抜けや聞き間違いは配点分の減点とした。ディクテーションでは、語彙や文法の知識で減点が避けられる場合があるので、積極的に活用したい。

(1) 過去形の動詞に続く that 節の中に空所があることに注意。

(2) 前置詞 at の後の動詞の形に注意。

2 文法・語法

文法事項は、形容詞、関係詞、動詞、前置詞、副詞の用法、倒置など広い範囲を含めた。中には、イディオムになっているものもある。文法・語法の知識に加えて、文脈の把握が必要な設問も複数あったことに注意。

3 英作文

この大問では、語彙・文法の正確な知識と、それらを組み合わせて適切な英文を作り、表現する力を問うていた。

A 整序英作文

採点は、英文全体として意味を成さない解答は配点分の減点とした。

(1) 無生物主語構文が使用できることを判断したい。また、steady は本問では収入を修飾する「安定した」という意味だが、性格や態度、目標などが「しっかりしている」という意味でも用いられる。

(2) (get + A +過去分詞) で「Aを～の状態にしよう」という意味となる。この語順を正しく書いていない答案が多かった。しっかり覚えておくこと。

(3) All you have to do is ～, はよく使う表現なので、覚えておくことよい。

(4) what becomes of ～で「～がどうなるのか」という意味。of の位置を誤っている答案が多かったため、注意。

B 条件付き英作文

会話文の一部を埋める形式で、イラストの状況や空所前後の文脈のつながりを考えて書くことが条件。イラストから読み取れる情報を不足なく盛り込めていたか、言いたいことが採点者に伝わる英文だったか、返却された答案を振り返っておこう。

採点は、内容面と文法・語彙の面から減点法で行った。

(1) 「郷に入っては郷に従え」の意味を説明するには「(あなたは)その土地の習慣に従うべきである」というポイントを含める必要がある。ポイントを押さえているが文脈的に前後が繋がらない場合などは-2点、ポイントを押さえられていない場合は-4点とした。

(2) ①着物を着たこと、②茶会に行ったことの2点をポイントとし、どちらかが抜けていたり前後の

文脈が繋がらない場合は-3点とした。スペルミスや文法面でのケアレスミスをしないう、書き終えたら必ず見直すこと。

(3) イラストから読み取れる状況について正しく説明できているかどうかのポイントであった。イラストの一部分の説明に終始しているものは、説明不足として-3点とした。

C 和文英訳

(1), (2) とともに以下に示すパートに分け、減点法で採点を行った。

(1) ○最近、自転車通勤をしている人をよく見かけますが ……4点

○健康に気を遣う人が増えている証でしょう ……4点

「～証でしょう」を訳出していなかった答案が散見された。英訳の際は、日本文のニュアンスをすべて訳出できているか最後の見直しが重要。

(2) ○慣れないことをする前に ……4点
○自分の年齢とよく相談すべきだったので ……4点

「～と相談する」を直訳している答案が見られた。「～を考慮する」くらいに読み替えるなど、表面的な意味以上に日本文の意図に十分注意を払うこと。

4 長文読解

科学好きの男の子がハンバーガー店で女性が手話で話しているのを目にしたことをきっかけに、科学発表会での企画を思いつき、手話翻訳機を発明する話。発明にいたるまでの協力者についての情報や発明の具体的な内容も盛り込まれている。

主人公であるライアン・パターソンの発明に関して正しく把握することが大切である。設問で取り上げた下線部は内容理解において重要な箇所なので、復習の際は誤りの選択肢についてもよく読み、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくと理解が深まるだろう。

(4) ②本文の説明に基づいて、「何を」「どうする」という内容を解答に含めること。match A with Bで「AをBに照合する」という意味なので、AとBの関係性を逆に取らないよう注意したい。

(5) 以下に示すパートに分け、減点法で採点した。

○ If I can make an innovative device that could help people out ……4点

○ particularly people with disabilities ……2点

○ I'll feel as though I've made a difference

……3点

as though …で「あたかも…のように」の意。仮定の意味合いがまったく出せていない場合は減点対象とした。

5 長文読解

クジラの親子のやりとりをもとに展開される、シニカルかつ抽象度の高い話であった。まずは文章の流れに沿って、それぞれの発言を正確に理解することが大切である。復習の際は、ダミー選択肢についてもよく読んで、どこが本文と異なるのかをはっきりさせておくと理解が深まるだろう。また、この文章の“The Great Whale’s Mistake”という題名についても、何が“mistake”であったのかを考えてみてほしい。

(3) 車が浜辺を走りながら、植物や鳥の巣を駄目にし、ゴミをまき散らしている様子が本文では述べられている。

(4) 誤答は a が多かったが、実際、母クジラと父クジラのどちらが厚い信仰心を持っていたかまでは言及されていない。

(5) b もまぎらわしかったが、クジラは人間に邪魔をされない場所を探していたとは述べられていないことに注意。

第2回 高1数学

総評

今回は、必答問題を「数と式」「2次関数」「場合の数と確率」から出題し、選択問題として「図形と計量」「整数の性質」「図形と方程式」を出題した。

全体的に、基本的な処理はおおむねよくできていたが、応用になると手がつかない人が多かった。ほぼ正答の答案の中にも、遠回りの解法をとっているものや、論証に不備があるものも見られた。「解答」や「解説」を確認し、よく復習しておいてほしい。

問題別講評

1 小問集合

- (1) よくできていた。
- (2) 答に過不足があるものがあつた。絶対値の扱いをよく確認しておこう。
- (3) **才**は比較的良好にできていたが、**力**はできていなかった。必要条件・十分条件については、集合の包含関係と関連付けてしっかりと理解しておこう。
- (4) **キ**はよくできていたが、**ク**は「解答」の場合分け(i)を考えられていないと思われるものが目立ち、出来はよくなかった。

2 2次関数

- 条件をみたま放物線の存在条件についての問題。
- (1) よくできていた。
 - (2) 全体的によくできていたが、題意を正しく捉えられていないと思われる答案もいくつか見られた。
 - (3) 題意を正しく捉えられていないと思われるものが多く、2点(1, -2), (0, 3)を通る放物線の最小値-6を求め、そこから $m \leq -6$ を答としたものが非常に多かった。
 - (4) 条件をみたまグラフをいくつかかいて、直感的に答を求めたものが目立った。

3 場合の数と確率

- 経路を題材にした、確率の問題。
- (1) 正しく考えられたものが多かったが、(i)で点Oから点Aに到達する経路が2通りあることを考慮していないものが見られた。
 - (2) よくできていた。

(3) 6の目が2回出ると勘違いしたもの、書き上げようとして失敗したものなど、さまざまな誤答が見られた。

(4) 条件つき確率の定義については、ほとんどの人が理解できているようであったが、(3)までの誤りが影響して正解できなかったものが多かった。

4 図形と計量

- 回転移動を題材とした、平面図形の問題。
- (1) よくできていた。
 - (2) よくできていた。
 - (3) (i) 図をかかずに考えようとして行き詰まっているものが多かった。本問のポイントは、円の性質を用いて等しい角を発見することである。図をかいて、もう一度考えてみてほしい。
 - (3) (ii) 手をつけられたものは、余弦定理を用いる方針をとったものが多かった。「解答」の方法も確認しておこう。

5 整数の性質

- 方程式の整数解に関する問題。
- (1) よくできていた。
 - (2) よくできていたが、 $b=3$ のみを答としたものもいくつか見られた。
 - (3) 有理数 x を分数の形で表し、与式を変形するところまでは比較的良好にできていたが、そこから正しく値の組を求められたものは少なかった。
 - (4) $z=1$ のとき値の組が2組存在することは述べられているものの、 $z \geq 2$ のときについての考察が不十分なものがいくつか見られた。

6 図形と方程式

- 領域を用いて式のとり得る値の範囲を求める問題。
- (1) よくできていた。
 - (2) 方針は正しいものの、計算ミスをしたものが見られた。日頃から丁寧な計算を心がけよう。
 - (3) 直線 l に関して点Aと対称な点の座標を求めればよいことに気づけなかったものが多かった。図形の特徴を捉える訓練をしていこう。
 - (4) (3)で直線の方程式を誤ったため、領域を正しく図示できなかった答案が多かった。また、式の図形的意味を考えてとり得る値の範囲を求める方針は重要なので、「解答」をよく読んでおいてほしい。

採点基準

以下に配点の目安を記しますので、参考にしてください。なお、下記は目安であり、立式や計算の過程において、場合に応じて部分的に得点を与えることや、減点することがあります。

また、「解答」以外の方法で解いた場合などは、以下の基準に当てはまらないこともあります。

1 (50点)

いずれも答に

- (1) **ア**: 5点, **イ**: 7点
- (2) **ウ**: 6点, **エ**: 7点
- (3) **オ**: 6点, **カ**: 6点
- (4) **キ**: 6点, **ク**: 7点

2 (50点)

- (1) (10点)
答に 10点
- (2) (10点)
放物線 $y = f(x)$ の頂点の x 座標 p を得て ... 6点
答に 4点
- (3) (15点)
 $0 < p \leq 3$ を得て 7点
答に 8点
- (4) (15点)
 $m = -(p-1)^2 - 2$ を図示して 10点
答に 5点

3 (50点)

- (1) (i) (5点)
答に 5点
- (1) (ii) (8点)
答に 8点
- (2) (12点)
答えを求める式を得て 8点
答に 4点
- (3) (13点)
条件をみたく移動のしかたを捉えて 4点
答に 9点
- (4) (12点)
4回目、6回目とも点Bに到達する確率を
求めて 5点
6回目で点Bに到達する確率を求めて 3点
答に 4点

4 (50点)

- (1) (5点)
答に 5点
- (2) (10点)
 $\triangle ABC$ の外接円の半径を求めて 6点
 $\triangle ABC$ の面積を求めて 4点
- (3) (i) (15点)
答えを求める式を得て 5点
答に 10点
- (3) (ii) (20点)
四角形 $APQR$ の面積 T を $\triangle ABC$ の面積 S を
用いて表して 8点
 $\triangle APQ$ の面積を S を用いて表して 9点
答に 3点

5 (50点)

- (1) (10点)
答に 10点
- (2) (10点)
答に 10点
- (3) (15点)
 $b = 1, 3$ を得て 3点
 $x = \frac{c}{3}$ と表し、与式を変形して 6点
答に 6点
- (4) (15点)
 $z = 1$ のとき、題意をみたく値の組を得て 4点
 $z = 2$ のとき、題意をみたく値の組は存在しない
ことを示して 10点
結論に 1点

6 (50点)

- (1) (10点)
答に 10点
- (2) (15点)
接線の傾きを求めて 11点
答に 4点
- (3) (15点)
直線 l に関して点 A と対称な点の
座標を得て 10点
答に 5点
- (4) (10点)
領域 E を図示して 4点
とり得る値の範囲を求めて 6点

第二回 高一国語

総評

高一の現時点では、古文、漢文の学習状況によって、点数の差がつきやすく、今回の模試でもその傾向が見られた。

問題別講評・採点基準

一 評論

- (一) 熟語は、一字でも誤りを含んでいたら不可。
- (e) 「精緻」の誤りが目立った。

(二) (ハ)とする誤答が多かった。述べられていることと自体は間違っていないが、ここは「反証可能性」が話題となっている箇所である。

(三) 「採点基準」

「a 並立しない二つの仮説を検証する科学は、b 意見の相違が調整される日常の場とは異なり、c 両者の中間の仮説を認めない」と説明して —— 10点
* a 4点、b 4点、c 2点。

b c の要素は押さえているが、a を欠く答案が目立った。傍線部のように言える前提として、科学自体に内在する要素を説明する必要がある。

(四) (ハ)とする誤答が多かった。この選択肢はラカトシユ・イムレの批判を踏まえたものだが、傍線部

はさらにその先、クーンのパラダイム論を受けたものである。

(五) 「採点基準」

「a 仮説を論理的で再現可能な実験によって証明することと反証可能性を存立条件としつつ、b その時代のパラダイムを身につけた c 研究者が、自らの目的を達成するためのプロセスとして行っている」と説明して —— 14点
* a 8点、b 2点、c 4点。

傍線部の前の段落にある「結果としての科学ではなく、結果を得るためのプロセスとしての科学」という記述に依拠し、そこに肉付けして解答欄を埋めた答案が多かった。確かに落としてはならないポイントではあるのだが、そこだけに終始してしまうと、「現代における『科学』の定義と問題文全体の論旨も踏まえて」という設問の指示に当たっていないことになってしまう。筆者は「このような考え方は、従来、科学史、科学哲学で議論の対象となっていた『科学』の定義とは大いに異なるものでしょう」と述べてはいるが、しかし実際に研究を行う際は、筆者自身も現代科学のパラダイム内でそのルールに従っていることに注意したい。

(六) 誤答としては(ハ)が目立った。

二 小説

(一) 「採点基準」

「a 自分も出ることを許されなかった重い奥伝に新

関が父と一緒に出ると聞き、b 新関が自分よりも父に近い立場にいると感じた」と説明して —— 12点
* a 7点、b 5点。

a の要素のみを書いたものが多かった。傍線部直前の「父と自分の距離、そして新関と父の距離を感じた」という記述から、父と新関、父と自分の距離について邦枝がどう感じたのかも説明に含めたい。

(二) これは非常によくできていた。

(三) (ハ)とする誤答が目立った。

(四) 「採点基準」

「a 微妙な音程のずれを感じ取れるのは娘だけだ」と思い至り、b 琴柱を直したのは邦枝に違いないと c 気づいた」と説明して —— 10点
* a 5点、b 4点、c 1点。

設問文が「寿久が『はつと息を呑んだ』のはなぜか」となっていることに注意したい。これはすなわち、解答として、寿久の頭の中にあることの説明を求めている、ということである。にもかかわらず、邦枝の頭の中にあることまで盛り込もうとすると、結果として字数が足りなくなり、必要な要素を落としてしまう。設問が求めていることのみをまとめられていたか、振り返っておこう。

(五) これはよくできていた。

(六) (ハ)を選ぶ誤答が多かった。もっともらしい選

択肢に惑わされないようにしよう。

三 古文

(一) まずは動詞を正しく抜き出せないと、活用の種類も活用形も正しく答えられない。間違えた人は、この、動詞を正しく抜き出すという段階でつまづいていたようである。

(二) いずれも基本かつ重要古語である。動詞なのに名詞の形で答えたり、逆に名詞なのに動詞の形で答えたりといった、細かなミスが目立った。そんなところで減点されるのはもったいない。注意しよう。

(三) 「採点基準」

「 a 隠瑜と死別した娘の悲しみが、 b 郭奕との結婚により c 少しでもいやされることを望む」と説明して — 10点

* a 4点、 b 3点、 c 3点。

妻を亡くした郭奕をかわいそうに思って、という方向で解釈しているものがあつた。郭奕への同情もまったくないことはないだろうが、ここはやはり、娘にとってよかれと思つてやったこと、と解釈するのが妥当である。

(四) 間違えた人は、抜き出した部分を現代語訳してみ、解答として妥当かどうか確認しておいてほしい。たとえば、最後の四字を「ことわりなければ」の「なければ」ではなく「ことわり」としてしまつと、傍線部の説明にはならなくなつてしまふ。

(五) (i) 「採点基準」

「 a 親の言いつけどおり b 郭奕と結婚し c たとしても」と説明して — 6点

* a 2点、 b 3点、 c 1点。

c の「ぬとも」にまで配慮して説明してほしい。

(ii) 「採点基準」

「 a 古き契りを b (私は) c いかで忘れん」を

「 a 前の夫との夫婦の契りを b 私は c どうして忘れるだろうか、いや、忘れないだろう」と訳して — 8点

* a 4点、 b 1点、 c 3点。

「いかで忘れん」は反語だが、ここを「どうにかして忘れよう」と解釈する誤答が散見された。

(六) これは比較的よくできていた。

(四) 漢文

(一) いずれも基本的なものである。間違えた人は、この機会に覚えておくように。

(二) ここで間違えた人は、本文全体の大きな流れをとらえられていなかったことになる。人物関係を押さえることは、読解の基本中の基本である。

(三) (i) 「採点基準」

「 a 遊びて b 時を量らずして c 君の得る所と為る(と) 」と書き下して — 4点

* a 1点、 b 1点、 c 2点。

(ii) 「採点基準」

「 a 遊んでいて時の経つのを忘れたので b あなたに捕らえられてしまった」と訳して — 4点

* a 2点、 b 2点。

書き下し・口語訳とも正しくできた人は少ない。

(四) (五) (七) これらも、やや残念な結果であつた。

(六) (i) 「採点基準」

「 a 禍 b 將に c 汝に d 及ばんとす(と) 」と書き下して — 4点

* a 1点、 b 1点、 c 1点、 d 1点。

(ii) 「採点基準」

「 a 桑樹が b 薪にされること」と説明して — 6点

* a 2点、 b 4点。

白答が相当数あつたのは残念である。